

'79 PORT FESTIVAL in OTARU

1979 7/7-8

<79 ポートフェスティバル・イン・オタル>

開 催 趣 意 書

□ 永かつた冬も過ぎ、いよいよ春の訪れが感じられる今日この頃、皆様にはなお一層御精進の事とお慶び申し上げます。

さて、小樽の夏祭りのメイン「潮祭り実行委員会」がいよいよ発足し、各町内会单位でも夏祭りの準備にかかり始めました。

そのような中、私ども小樽の若者と私どもを暖くみつめて下さる方々とが、再び集い、話し合い「79年ポートフェスティバル」開催に向けて、3月下旬、その実行委員会を発足させる事にあいなりました。

昨年のポートフェスティバルは、何分にも全てが初めての試みであり、加えて素人の若者が中心であったため、皆様にはいろいろ御心配をおかけしましたが、御支援・御協力を得て、おかげさまで小樽は勿論、近隣市町村をも含めますと、約十万人にもおよぶ人々に祭りを楽しんでいただく事ができました。

□ 昨年のポートフェスティバルの成功は、以降、私ども若者が、自らが「何かする事」の大切さを教え、それも自らが生活する場－わが町・小樽という舞台で「行動」する事の大切さを教えてくれました。自然環境に恵まれ、歴史のあるわが町・小樽、その小樽で、数年前までは特別の事のようにしか語られなかつた様々な若者の試み－手作り工芸の店や古い石蔵を再利用した喫茶店やライブハウスなどはすっかり定着し、そこを拠点に演劇や音楽、レコード製作と小樽独自の文化形成の一端を担うまでに育つて来ています。

□ 私たちは、北の海がつちかってきた歴史、風雪に耐えながら形づくられてきた町並み、人情というものの中に、この若者の活気ある動きを盛り込みたい、その表現として「ポートフェスティバル」を開催したいのです。

勿論、このポートフェスティバルは若者だけの「祭り」ではありません。「赤ちゃんからお年寄りまでが参加できる「手作りの祭り」。その祭りの「場」を、小樽とは切っても切れない「水辺」「歴史」を生かした空間で開催したいのです。

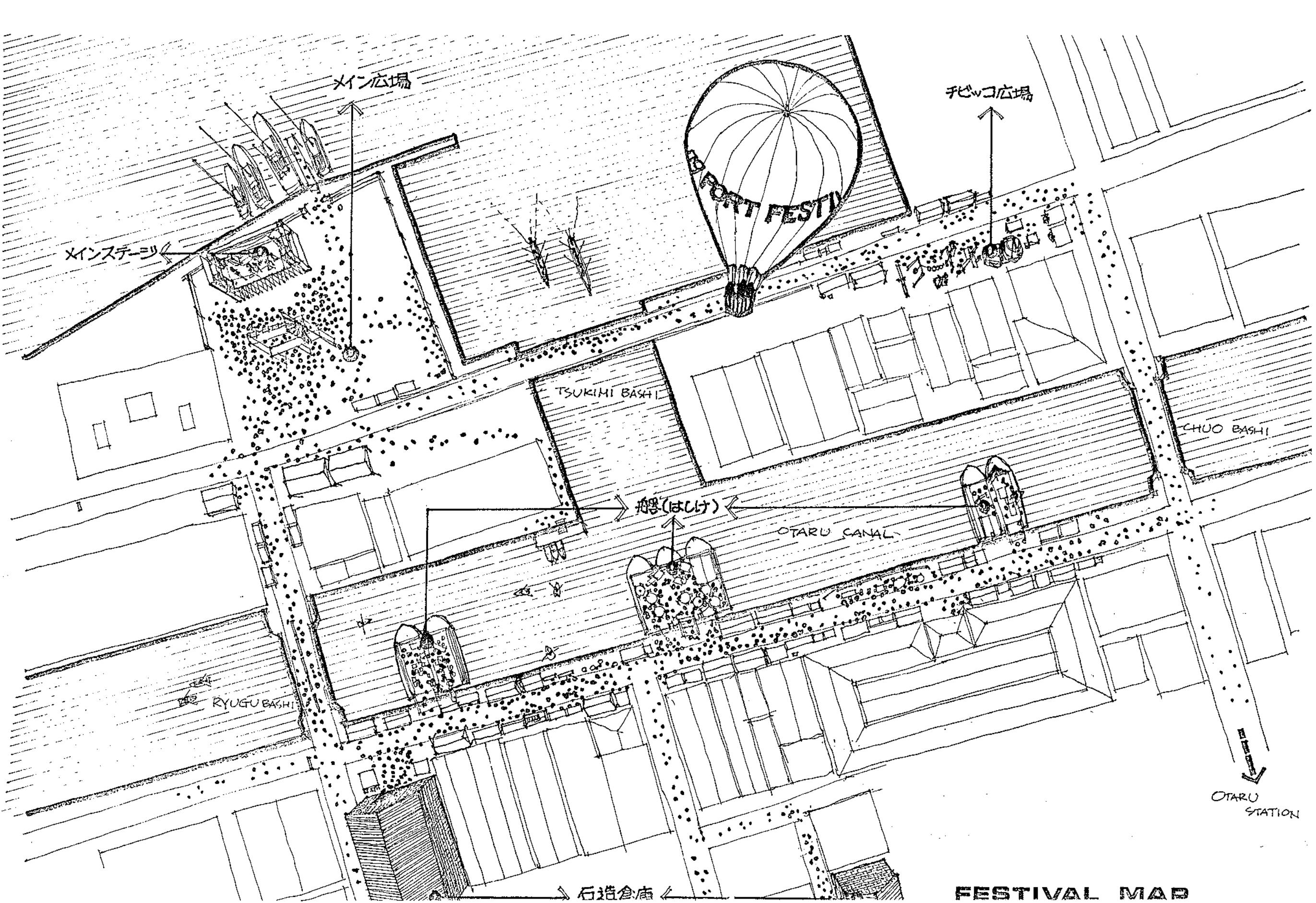
昨年のポートフェスティバルは、初めての試みに加え、準備期間のなさ資金不足等が重なり、思い描いた企画のすべてが催されたとはいえませんでした。

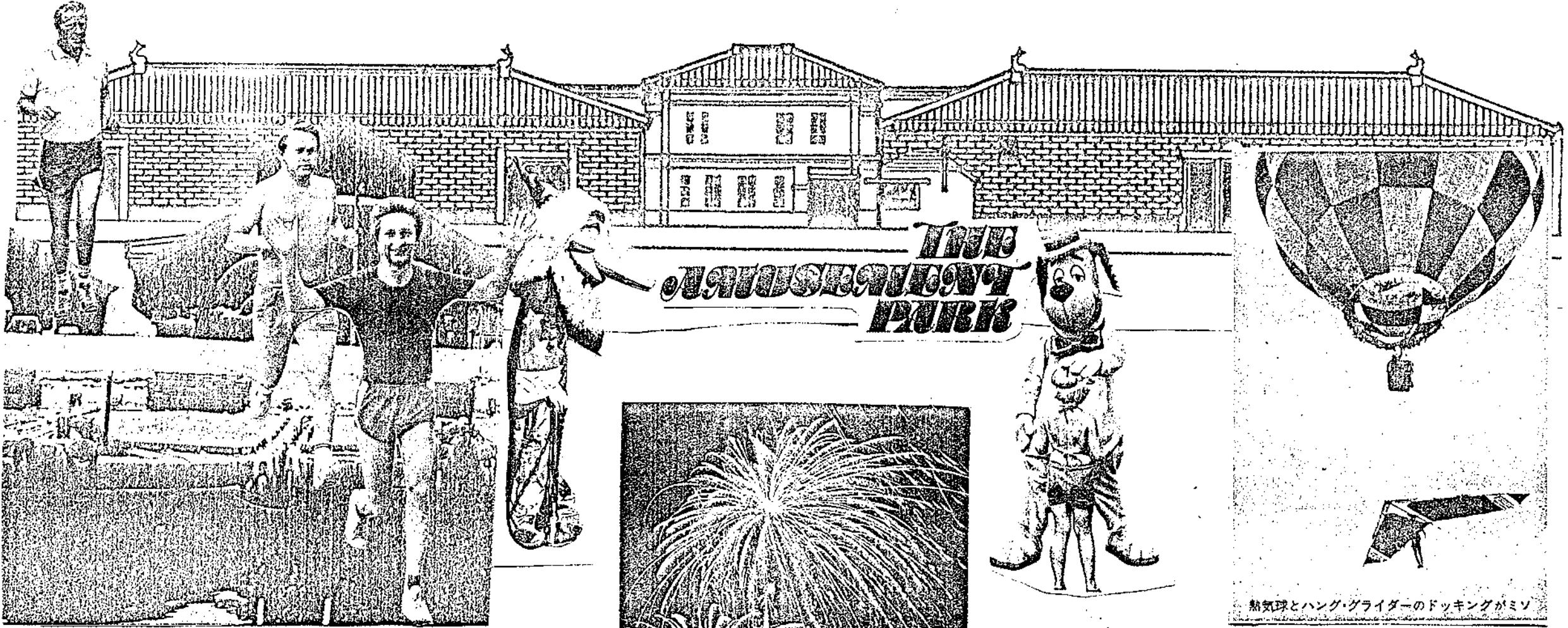
今年は、子供からお年寄りまでの多くの人々にも自ら楽しい企画をもつて参加していただき、昨年以上の「祭り」にしたいものと考えております。

〈手作りの文化－わが町－水辺の祭り〉というテーマのもとに小樽を愛し、水辺を愛し、手作りを愛し、小樽の歴史を誇る人々と共に、若者の心意気、息吹きを溢れさせようとする私どもの趣旨にどうぞ御賛同いただきますようお願い申し上げます。

1979年4月

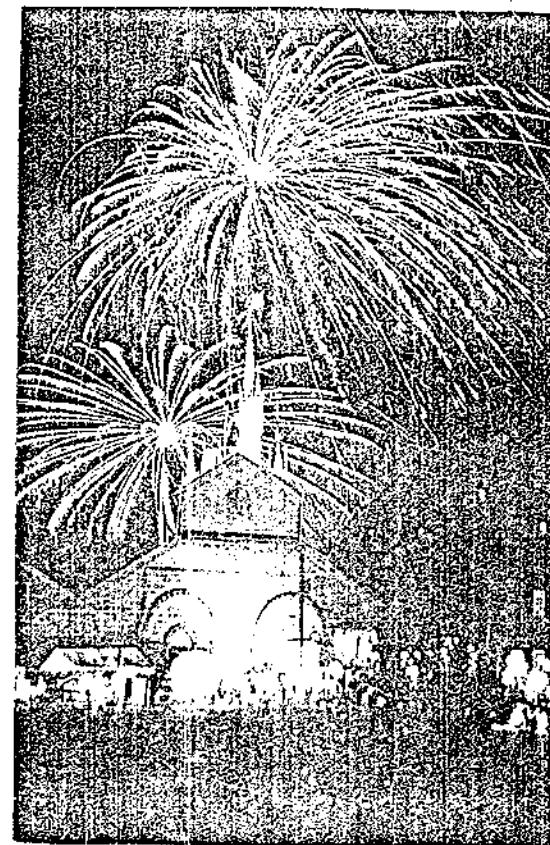
ポートフェスティバル実行委員会一同
実行委員会会長 小川原 格
小樽市権現2-19-14





メイン会場における大運動会
 運河一周マラソン大会
 ヨット遊覧
 港内遊覧船
 アマチュア無線デモンストレーション
 港あどり(仮称)

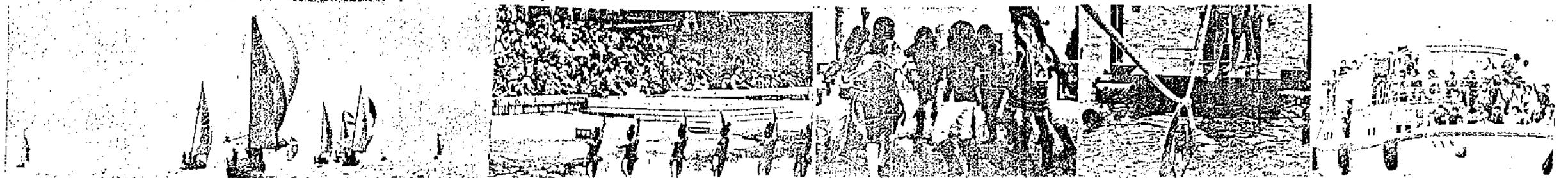
総合企画



演出

倉庫への照明 運河への照明
 風船 ちようちん
 気球あげ 花火大会
 ぬいぐるみによる子供へのサービス
 多くの休息所をつくる

熱気球とハング・グライダーのドッキングがミソ





MAIN STAGE

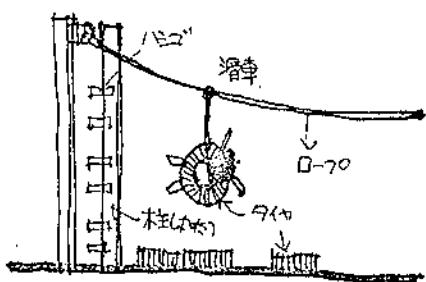
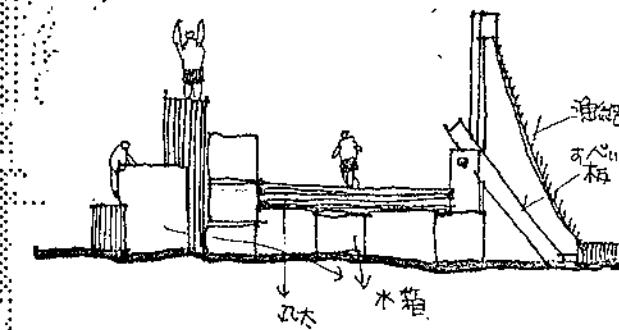
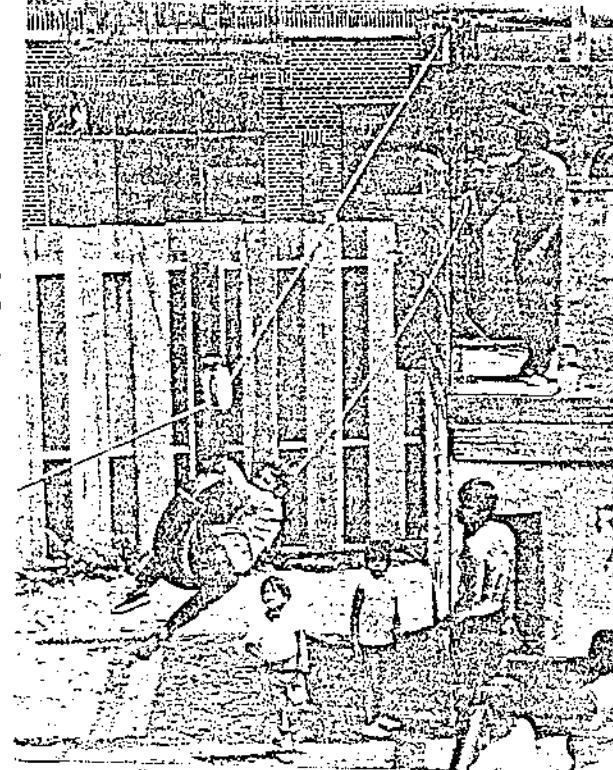
★ ★ ★
水面を滑走する若者の叫び

ローラーコaster

フォーチュナ

公開放送

その他ビデオ



無心 手作りへの出会い

ちびっこひろば

⇒水上警察のひろば

- ・ 夏の網漁。夏の花火
- ・ 飛びはねインコ。ローラーすべり
- ・ メリーゴーランド。ネットアライマー
- ・ 公園小屋。ハングルレシモン
- ・ ハングルレスベリ台 etc.

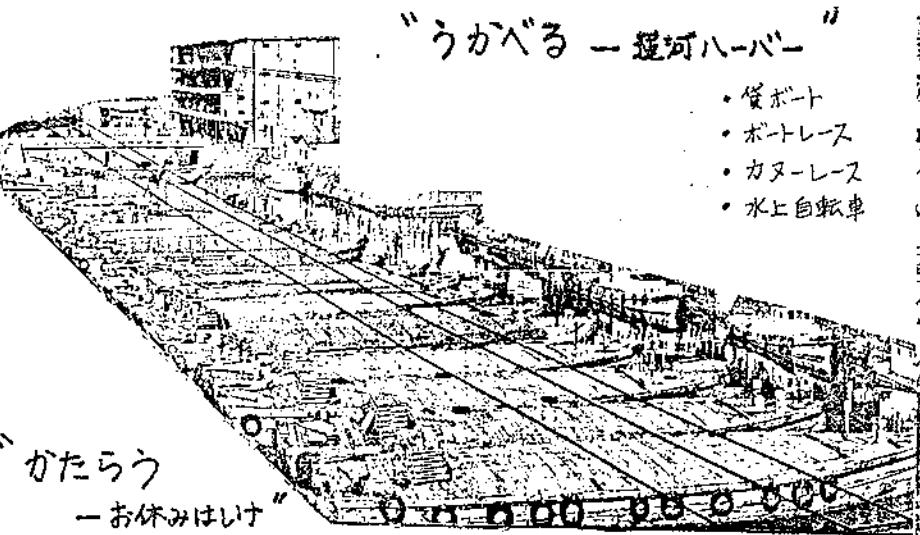
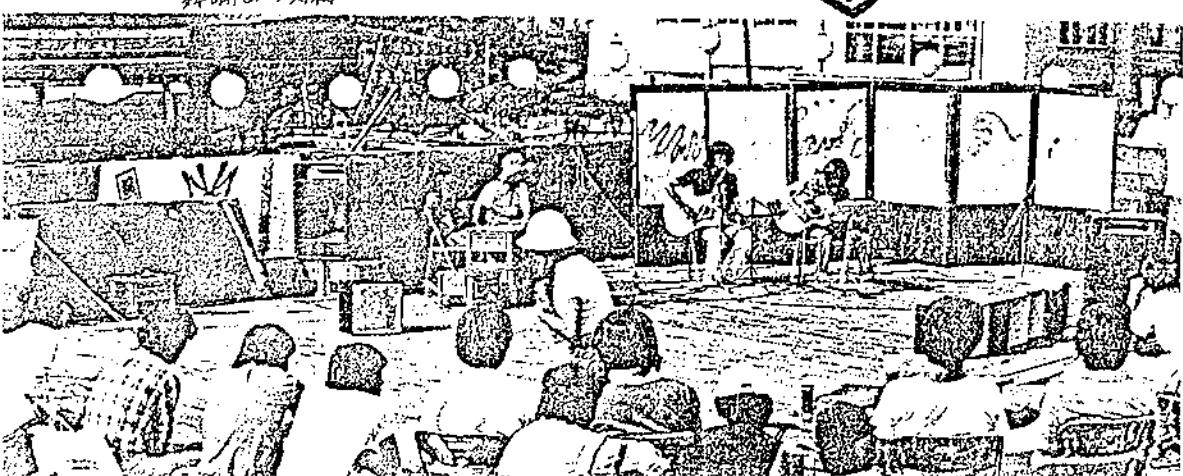


運河の水辺にほとばしる

人々の熱い息

“かなでるーまつりはしけ”

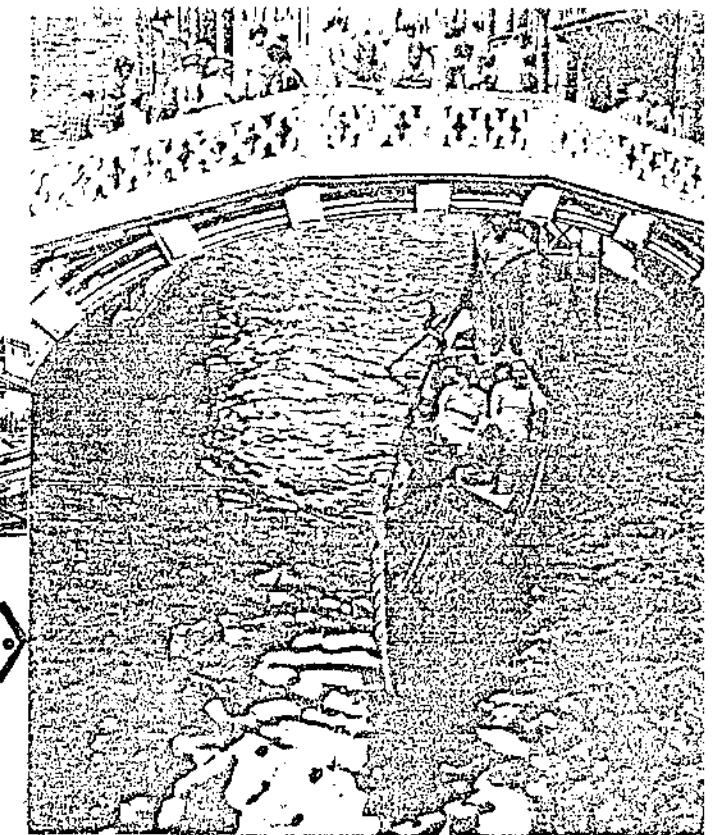
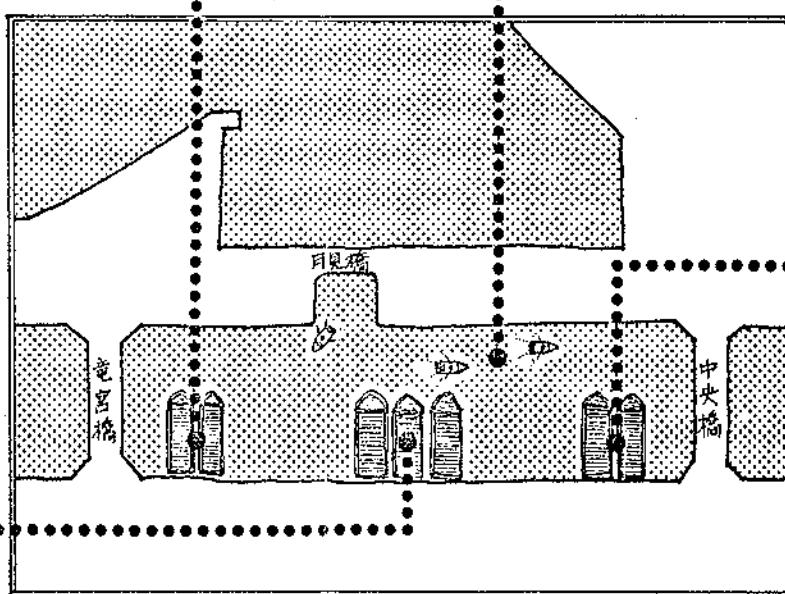
- ・フォーク、ジャズコンサート
- ・ビヤホール
- ・のど自慢大会
- ・ビール早飲み、コーラ早飲み大会
- ・舞踊or演劇
- ・クイズ大会



“かたらう

ーお休みはいけ”

- ・すわれるもの（イス、ビール箱、フサ等）の設置
- ・折様、基壇の簡単な娛樂
- ・絵、写真等の展示



“あそぶー子供はいけ”

- ・子供向けの遊具の設置
- ・昔なつかしい遊びの指導
- ・遊び道具の創作
- ・落書きコーナー
- ・チビッコクイズ大会
- ・ぬいぐるみ等のアトラクション

